

## 【参考】別表2の最低制限価格算定方式

### 算出方法

- ① 予定価格の超過・75%未満の入札を控除
- ② ①の平均( $\alpha$ )、標準偏差( $\beta$ )を算出
- ③ 平均( $\alpha$ ) $\pm$ 標準偏差( $\beta$ )の範囲内の入札額の平均値( $\gamma$ )を算出
- ④ ③の値が従来の基準\*で算出された最低制限価格未満であれば、最低制限価格として採用  
(同額以上なら、従来の基準による算定額が最低制限価格となる)

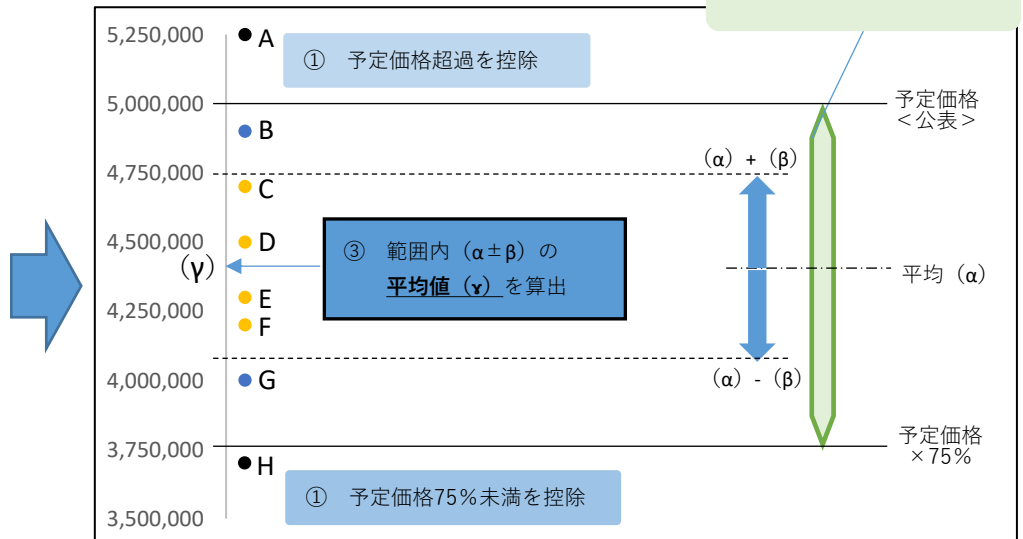
※ (直接工事費 $\times$ 97% + 共通仮設費 $\times$ 90% + 現場管理費 $\times$ 90% + 一般管理費 $\times$ 55%)  $\times$  a  
a: 機械が無作為に選んだ係数 (99.5%~100.5%の範囲内で0.01%刻み)

### 計算例

★予定価格 5,000,000円

★従来の基準で算出された最低制限価格 4,450,000円

入札者	入札金額
A	5,250,000
B	4,900,000
C	4,700,000
D	4,500,000
E	4,300,000
F	4,200,000
G	4,000,000
H	3,700,000



② この範囲内の入札額の平均 ( $\alpha$ ) と標準偏差 ( $\beta$ ) を算出

① A (予定価格超過) と H (予定価格の75%未満) は算入しない

② (1) B~Gの平均入札額

$$(B + C + D + E + F + G) \div 6 = 4,433,333.333\dots$$

小数点以下第3位四捨五入  $\Rightarrow$  4,433,333.33円 ( $\alpha$ )

(2) 標準偏差

$$\sqrt{\frac{(B-\alpha)^2 + (C-\alpha)^2 + \dots + (G-\alpha)^2}{6}} = 303,681.119\dots$$

小数点以下第3位四捨五入  $\Rightarrow$  303,681.12 ( $\beta$ )

③ (1) 平均入札額に算入する入札額の範囲

[上限]  $\alpha + \beta = 4,737,014.45 \Rightarrow$  4,737,014円 (小数点以下切り捨て)

[下限]  $\alpha - \beta = 4,129,652.21 \Rightarrow$  4,129,653円 (小数点以下切り上げ)

(2) (1)の範囲内の平均入札額

B (上限超過) と G (下限未満) は算入しない

$(C + D + E + F) \div 4 =$  4,425,000円 ( $\gamma$ ) (千円未満の金額は切り捨て)

④  $\gamma$  ( $\alpha \pm \beta$ の範囲内の平均値) と従来の基準で算出された最低制限価格を比較

4,425,000円 ( $\gamma$ ) < 4,450,000円 (従来の基準で算出された最低制限価格)

**最低制限価格 = 4,425,000円**

#### 標準偏差...

データのばらつきを表す値であり、標準偏差を用いることによって、平均から乖離した入札額の影響を抑えることができます。